

## 第4回 道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会

### 議事録

---

日 時：令和2年10月21日(水) 15:00～17:10 (意見交換)  
場 所：TKP 札幌ビジネスセンター赤レンガ前 5階マーガレット (一部リモート)  
構成員：協議会開催要領 別紙-1による  
座 長：札幌市立大学名誉教授 矢部和夫  
事務局：空知総合振興局札幌建設管理部、北広島市  
傍聴人：2名  
報道関係者：北海道新聞社、北海道建設新聞社、北海道通信社

---

#### 1 開会

##### 高木課長 (司会者)

それでは、時間となりましたので、第4回道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会を開会いたします。

私は、本日、司会進行を務めさせていただきます、北海道空知総合振興局札幌建設管理部事業室道路課長の高木でございます。よろしくお願いいたします。

本日の協議会資料、議事録につきましては、前回と同様に、後日、空知総合振興局札幌建設管理部のホームページ等で公開することとしておりますので、御参加の皆様にはあらかじめ御了承をお願いいたします。

また、議事録作成のため、事務局において会議の内容を録音させていただきますけれども、希少種の生息状況等に係る情報が含まれることから、構成員及び傍聴者の録音、録画はお控えいただきますようよろしくお願いいたします。

本日、福井構成員におかれましては、欠席となっております。また、浅利構成員につきましては、リモートにより参加となっております。

続いて、配付資料の確認でございますけれども、構成員の皆様には事前にメールをさせていただいた資料となっておりますが、会議次第、別紙-1の協議会構成員の名簿、会議資料ということになってございます。資料等に不備がございましたら、お知らせください。

それでは、会議次第に従いまして進めてまいります。

まず始めに、開会に当たりまして、事務局を代表いたしまして空知総合振興局札幌建設管理部事業室長の鷲尾から御挨拶を申し上げます。

##### ○事務局挨拶

##### 空知総合振興局札幌建設管理部事業室長 鷲尾 亨

皆様、御苦勞さまでございます。札幌建設管理部の鷲尾でございます。

まず、当協議会の構成員の皆様におかれましては、御多忙中のところ御出席いただきまして誠にありがとうございます。

今回、この会議は4回目を迎えますが、これまでの3回の会議におきまして、道道きたひろしま総合運動公園線周辺の自然環境の保全に向けました工用道路などの施工計画や自然環境の保全措置を御議論していただきました。

本日は、今年度実施しました環境調査の結果から、これまで御議論した内容も踏まえまして、希少な動植物への保全、例えば在来種の緑化による自然環境の保全措置等について、まず事務局から御説明しまして、各分野の皆様方から広く御意見をいただきたいと考えてございます。

また、資料にも後半ございますが、今後実施します工事の間におけるモニタリング、あるいは供用後のモニタリングという部分について整理しております。加えてエコロードとしての周辺地域の利活用の検討、さらには、今後の事業の進め方等についても事務局から説明していきたいと考えてございます。

非常に限られた時間ではございますが、忌憚のない御意見を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

## 高木課長（司会者）

- ・報告事項ですが、協議会要領の別紙－1について、このたび、矢部座長が札幌市立大学の名誉教授に御就任されたということで、要領が変更となりますことを報告します。
- ・それでは、議事に入らせていただきます。
- ・ここからの進行につきましては、矢部座長にお願いをいたします。

## 2 議事

### 矢部座長

事務局から協議会資料について説明をお願いします。

### 事務局(道)

#### (1) 検討内容の説明（第4回協議会資料）

### 矢部座長

#### (2) 意見交換

- ・今回は、今まで協議した結果を確認して、新たに何か検討すべきものがあつたときには、その都度考えていきたいと思えます。
- ・5ページから具体的に一つずつ検討していきたいと思えますが、西側の市道接合部分で、新たに「ラウンドアバウト」という新技術による道路づくりが立案されています。
- ・今説明がありましたように、変更後の計画は、当初計画よりも土地改変が少ない形となっていて、エコロードを推進する立場としては好ましいことと思うのですが、御意見をお伺いします。

○前回までの宿題事項、事業計画の補足説明

### 在田構成員

・このラウンドアバウトという考え方は非常にいいと思えます。この半径はどのぐらいなのでしょう。ある程度大きくないと渋滞も起きますし、スムーズに車が走れないと思うのですが、外国なんかではものすごく大きな半径になっていますけれども。

### 事務局(道)

- ・現在まだ詳細な設計が済んでおりませんことから、この環道の部分について、どのぐらいの大きさかというのは正確に言うことはできないのですが、なるべく大きくなるように、設計スピードを基に、また交通量にも関係いたしますが、極力大きくなるように考えております。
- ・小さくなると非常に窮屈になり、ラウンドアバウト内のスピードも落ちてしまいますので、極力大きなものになるように道路構造令等と整合を取りながら、大きさについて決めていきたいと考えております。

## 在田構成員

- ・この仮の設計図に出ているものは、本当の仮のものなのですね。

## 事務局(道)

- ・概略設計段階のもので。

## 在田構成員

- ・1センチぐらいなので、2,000分の1ですから、20メートルぐらいかなと思った。

## 矢部座長

- ・具体的には、これから形を詰めていくということですね。

## 事務局(道)

- ・そうです。丸い形状の部分について、道路構造令などと整合を図りながら設計を行って確定していきます。

## 在田構成員

- ・わかりました。

## 矢部座長

- ・これまでのロータリーと、ラウンドアバウトというのは違うもののように思いますが、エコロードとしてこれを採用することに異議がありますか。

## 矢部座長

- ・では、この方向でさらに詰めるようお願いします。

## 事務局(道)

- ・はい、わかりました。

## 矢部座長

- ・7ページの濁水対策ですが、水の濁り、いわゆるSSをタンクに溜め込んで沈殿させて、きれいになった上澄み液を裏の沢川に戻すというような案になっていますが、これについて皆さんの御意見をお伺いします。
- ・具体的にこの装置を何個どこにつけるかという具体案が見えないのですけれども、どのような計画でしょうか。

## 事務局(道)

- ・設置する箇所につきましては、7ページの図面の中に水槽、ポンプということで想定しています。
- ・溜まる水の量、水の濁度とかが実際どうなるかはわからないのですが、その辺は施工しながら、水槽の大きさを大きくするとか、水槽の数を直列、並列にて数を増やして処理するとかいうような方法でもって排水基準値になるように対応してまいります。
- ・施工していく中で、必要に応じて箇所等、臨機に変更してまいりたいと考えております。

## 在田構成員

- ・私も矢部座長と同じような疑問を持っていたのですけれども、ここに書いてある黄色いポンプの場

所というのは、これはもう本当に暫定的なもので。要するに、工事中の濁水も低いところに流れるわけですね。低いところに集まってくると思うのですけれども、当然、そうするとその場その場で、現場で判断しないとなかなか難しいということになりますね。

・それと7ページの図がありまして、例という断面のような図がありますね。これはポンプが低いところに置いてあって、そこから濁水を押し上げて、その水槽に入れて、水槽の下に沈殿物がたまって上澄みを流すという、元の沢に流すというわけですね。

## 事務局(道)

・はい。

## 在田構成員

・わかりました。結構、この上澄みをきちんと流すということが、工事現場によってはうまくやっていないという。例えば新幹線の道南のほうの工事では、地元のちゃんと見ている人たちがいろいろ文句を言っているようですけれども、そういうことのないようにきちんとやってほしいと思います。

## 事務局(道)

・その点は施工者に対してきちっと指導するとともに、我々のほうで監督するようチェックしてまいります。

## 矢部座長

・この、SSやその他の環境基準というのは環境省かどこかにあるんですね。

## 事務局(道)

・はい。

## 矢部座長

・あればいいです。それに適合するような形で処理すると。

## 事務局(道)

・19ページに水質調査結果ということで明示させてもらっていますけれども、施工の要領というべき道の基準では排水基準は必ず守るということになっていますので、必ず守ります。

・下流、中流、上流の平均とあるのが、現地の数字で、御覧のとおりかなり差がありますが、現状の数字に合わせるとなると、多分かなりの対策が必要になるということです。

・それ以上の数値については、今後、施工業者さんとも話をしなければいけないですし、モニタリングを含めて、検討させてもらいたいと思っています。

・今ここで目標値をどうするかは、なかなか宣言しにくいところがあるので、御承知願いたいと思います。

## 矢部座長

・高井さん、問題は特にSSですけれども、排水基準を守っているということで生き物への影響について、基本的に完全がないというわけではないでしょう。けれども、ある程度の目処は立つというふうに考えていいですか。

## 高井構成員

・そう考えざるを得ないと思います。魚類に関してはちょっと分からないので何とも言えないのです

けれども、本当にどろどろの排水そのものを直接流すというよりは、ちゃんと沈殿で抑えた上澄みを出すことは結構負担が低くなると思うので、その方針でいってもらうのがベターかなとは思いますが。

### 矢部座長

・このエリアは、水質的にはBODで見ればAとAAですからすごくきれいですね。それである程度濁りが取ればいけるということでしょうか。

### 高井構成員

・川に流すのでしたら、やっぱり魚類になってしまうので、魚類がそういったのをどこまで影響を受けるのかというのは僕自身からないですけども、生息しているのもエゾウグイとかドジョウとかなので、僕の認識ですけども、比較的汚れには強いと思われる魚なのです。

・ですので、その方法で比較的大丈夫なのかなというふうに思います。ただ、もし万全を期すのであれば、ちゃんと魚類の専門家に話を聞いてみるのが確実かなと思います。

### 矢部座長

・それはやっておいてください。

### 事務局(道)

・必要に応じて専門家に御相談というのは以前からお話ししていましたので、この部分については、現地をモニタリングしながら、かつ魚類の先生に御意見を聞きながら進めていきたいと思っています。

### 在田構成員

・教えていただきたいのですが、排水基準というのは、工事での排水基準なのか。都市部での排水基準とこういうきれいな場所での排水基準というのは全部同じということなのですか。

### 事務局(道)

・言葉足らずで申し訳ないです。工事だけということではなく、環境そのものに対しての排水基準という全般の話です。この工事だけのという意味ではないです。

### 矢部座長

・在田さん、よろしいですか。

### 在田構成員

・何となく、ある程度だけわかりました。

### 矢部座長

・工事中の排水対策について、専門家に魚類に対するSSの影響を確認するということです。

・具体的な流量、水槽の大きさとかは、これから決めるということですが、このような対応でよろしいでしょうか。

・8ページの凍結防止剤等の塩害対策ですが、難しいところがあると思います。撒く以上は可能な対応は取っていただくということなのですが、これについて御意見をお願いします。

・これまでの議論の中でも、車が通る以上撒かないわけにはいかないということで、可能な対応が何であるかということを模索していただいたのがこの形になっています。

## 高井構成員

・この塩カルとかを道路に撒くというふうなことだと思うのですが、例えば、排水桝とかの中の濃度とかのモニタリングというのは、数回以下でも構わないのですが可能でしょうか。

## 事務局（道）

・モニタリングすること自体は可能だと思います。ただ、そのタイミングが難しいところです。どのタイミングでどうするかということを検討するのが大変かと思います。

## 高井構成員

・結構、エゾサンショウウオとかで、こういったような塩カルの影響があるというふうな報告も上がっているのですが、その排水桝の濃度が影響のある濃度かどうかというのを把握することは必要かなと思いました。

## 事務局（道）

・今、タイミングが非常に大事だということがあったのですが、融け出すのは融雪期でありますので、そこを重点的に計測しますが、それ以外でも、厳冬期はどうなっているのか、場所場所で桝の中はどうなのか、桝ではないところは除雪して道路脇に堆積され、過去に撒いた融雪剤は除雪機械で山積みになっていますので、雪山も併せて相関性が分かるようなモニタリングを考えていきます。

## 高井構成員

・わかりました。

## 矢部座長

・運用する路面管理の考え方のなかで、できるだけ融雪剤を少なく撒くとか、むやみにじゃんじゃん撒かないとか、そういう対策が大きいですね。

・確かに目に見えないし、植生一つとっても、塩カルの影響があるかないかというのも現段階では多分誰にも分からないものだと思います。今後とも監視を続ける必要があります。

## 事務局（道）

・座長がおっしゃったとおり、冬季の利用状況というところが極めてポイントで、この道路の目的から考えると、冬季の利用というのは極めて少ないのかなと想定でき、そういった意味での撒き方というのは、通常の道路とは違うやり方ができるということです。

・座長がおっしゃったような形で、まず少なめからやっていくという方向でも考えられるのです。

・少なめにやっていきながら、モニタリングして、どこまで撒けるといったところを検討していく方向かなと考えております。

## 矢部座長

・塩害対策について、他の御意見ございますか。

・では、当面この形でいくということのなかで、今後とも検討することをお願いします。

・10ページはエゾシカの調査結果と、対策の防鹿ネット、防鹿柵の検討が出ています。橋の下にエゾシカを誘導して交通事故を防ぐことになってはいますけれども、浅利さん、コメントをお願いします。

## ○環境調査結果と環境保全措置(対策)について

### 浅利構成員

・計画が大幅に変わったという感じになった。全線の柵設置、ドレスネットで塞いで大分侵入の解消

に近づいているかなと思うのですが、どうしても片側だけで計画しているところがありますので、J Rとか国道側のほうをどうするかというのを協議していただいて、それ次第でまた検討する内容が変わってくるかなというふうに思っています。

- ・あとは柵端部、カルバートへの端部についても隙間がないように考えてもらって施工していただければ、入る確率は下がるかなとは思いますが。

- ・ただ、100%ではないので、どうしてもフェンスをしていてもどこかに隙間が必ずできてきたり、積雪があれば乗り越える個体も稀にいますので、継続的にフェンスを直したりとかチェックをしながら侵入防止をしていくという形がいいかと思えます。

## 矢部座長

- ・南側だけにフェンスをして、北側についてはJ Rとの関係とか、これから検討するのですね。附帯条件があったらお願いします。

## 事務局（道）

- ・まだ、開発局(国道)さん、J Rさんとはまだ打ち合わせはしていません。今日の皆さんの御意見をいただき方向性が定まった中で、次にその関係機関とお話をしていきたいと思っております。

- ・国道側を見ますと、民地があったり、建物があつたりということで、かなり開発が進んでいるという中、どこまで柵が置けるかというのが多分ポイントになってくるので、今、浅利先生がおっしゃったような100%はやっぱり難しいのかなと思えますので、そこも含めてどこまでできるかということでお話をさせていただくということを考えています。

## 矢部座長

- ・浅利さん、皆さん、この件について何か御意見ございますか。

## 浅利構成員

- ・100%と言ったのは、どれだけフェンスを完璧にしても、どこかから入る可能性があるということなので、反対側を全面開けてしまうと必ず入ると思えます。

- ・端部、フェンス、カルバートに沿って移動したりするので、どうしても侵入できる環境、隙間があればそこから絶対入ってくるので、幾ら環境改変されていたり宅地があつたりといったことがあっても、このような環境だったら、片側フェンスがない部分ができるとそこから入るというのは想像できるかなと思えます。

## 矢部座長

- ・いずれは北側にもつけたほうがいいということですね。

## 浅利構成員

- ・そうですね、J R側と国道側が何か対策を一緒にやってくれるということであれば、またやり方は変わるかもしれないですけども、片側だけだと厳しいかと思えます。

## 矢部座長

- ・今の意見を聞いた上で対応をお願いします。

- ・シカの専門家のほうから検討事項が出ましたけれども、これ以外に何かございましたら御意見お願いします。

- ・では、エゾシカについては、今のようなアウトラインでよろしいでしょうか。

- ・続きまして12ページのコウモリ類なのですが、今日は専門家が欠席されています。12ページの

左下に出ていますように、対策としては改変域をできるだけ小さくすること、橋長を長くすること、昆虫類を誘引する街灯を設置しないこと、それから、夏季の夜間工事実施には照明をできるだけ少なくし、必要なところ以外に照明を当てないようにすることで配慮するというような対策が立てられています。これについて皆さんから何か御意見ございますか。

### 浅利構成員

- ・環境保全ですが、樹洞とか、ねぐらになるようなものを改変したりするときの配慮も考えておいたほうが良いと思っています。
- ・工事時にコテングコウモリとかはあまり使わない、モモジロも使わないですけれども、ヒメホオヒゲコウモリなんかは樹洞にねぐらを取ったりしますので、木を切るときにいないかどうか、モモンガとかも同じなのですけれども、ねぐらにする木への伐採の配慮を考えておいたほうが良いと思います。

### 矢部座長

- ・ねぐらとなる樹洞のある木というのが重要だということでした。これについて何か対策を考えたりしているでしょうか。

### 事務局(道)

- ・今後、工事を進めていくにあたって、どの木が支障になるのかというのは、業者さんのほうで現地を施工する前に測量して丁張を出します。そこで木を切らなければならない範囲というのは大体見えてきますので、そのときにその範囲に入ったものについて実際に確認をするという行為はできると思います。
- ・そのうえで、避けられるものであれば、工事用道路線形をちょっと修正したりで、避けていくということは現地で可能な限りはやってまいりますが、避けられないものもございまして、そういったものについては、伐採する方向でいかせていただきます。
- ・こちらの調査報告にもございまして、ねぐらとなる樹林地はかなり幅広く分布しているということもありますので、極力範囲縮小することが対策なのかなと思っているのですが。

### 矢部座長

- ・福井さんから何か注意事項とかがあったら、それを検討してください。
- ・コウモリについて何か他の御意見はございますか。
- ・担当専門員がいないので、今日は先へ進んでよろしいですか。

### 三澤構成員

- ・コウモリとエゾシカに話題が集中していると思うのですが、エゾリスのロードキルに関してどのような対策が考えられるのかなど。
- ・今朝、散歩していましたが、団地を周回する道路がありまして、そこをエゾリスが林地から道路を横断して住宅のほうに行って、また戻ってきていました。そこは朝の通勤時間帯だから頻繁に車が通っているのですが、エゾシカ等の対策によりまして、ドレスネットにより下部を塞ぐとなっていますけれども、多分塞いでもエゾリスの場合は上に上って、今日もかなり高いところを上って、ほんと住宅のほうに行っていましたので、じゃあ、2.5メートルのネットで対策できるのかといたら、それも無理だろうと思います。
- ・オーバブリッジの形で造ったらどうかというのも以前話が出ましたが、それは避難道路ということ考えるとできないのだということで、どのようにしてエゾリス等のロードキルを防止できるのかなということがちょっと私も想像がつかないのですが、どちらかかなりの専門家のアドバイス等をいただきながら、特にエゾリスなどのロードキルが起きないように対策を講じてもらいたい



なという要望です。

## 事務局(道)

・エゾシカだけではなくて、小動物も当然視野には入れておるわけなのですけれども、今おっしゃったようにリスが柵を上っていくというところは、実際に設置する柵をどういう形状素材で、つるつるのものであれば多分上っていけないと思うのですけれども、つかまるところがあったら上るかもしれないのですけれども、そういった製品も確認しながら、有識者の方の御意見等も伺いながら、実際に採用する柵の板にどういうものがあるのかについては検討してまいりたいと思います。

## 平田構成員

・エゾリスの活動時間というのは、夕方から夜にかけても活動するものなのですか。といいますのも、今回の道路というのは非常に特殊な道路で、24時間ずっと通るわけではなく、ある特定の時間帯に交通量が集中する道路だと思っております。もし夕方から夜間にかけて行動しないのであれば、恐らく一番コアな時間帯、交通量が多い時間、エゾリスというのは被害に遭わないのではないかとこのように思うのですけれども、その点どうなのでしょう。

## 矢部座長

・対策が取れるものなのかどうかも含めて、リスの専門家に確認してください。

## 浅利構成員

・どちらかという私はこの専門で、モモンガとかリスとかも10何年もやっています。  
・リスの活動時間は、基本的には早朝から昼前ぐらいまででメインの時間は終わって、そこからだらだらと活動するのもしあれば、しないのもいるといったものが多いので、さっき言われたように、交通量がきつと増えるだろうという時間帯にリスがたくさん横断するかということ、そういうことではないだろうとは思っています。  
・ロードキル自体は起きる可能性は低いのですが、どちらかという生息地の分断というほうがリスは問題だと考えていて、それは多分、結構最初のころに話させていただいたのですけれども、それは対策しないという話だったのではないかとこのように感じます。

## 矢部座長

・以前、リスのお話しをしましたが、対策しないのはどうしてでしたか。できないということでしたか。

## 事務局(道)

・まとめてしまうと、しにくいということになってしまうのです。道路ができるのは間違いなくて、結局トンネルの話云々、今までに議論がありましたけれども、橋長を延ばして、水辺のところの橋梁桁下空間をかなり広げたのは、そちらを行き来してほしいということを狙ってのことなのです。  
・勿論そういった小動物の細かな動きはなかなか掴みにくいところもあり、木の上に登ったりするのはたくさんいると思うのですけれども、少なくとも鹿柵の下には小動物が入らないような仕切りをしたいと思っているので、できれば橋梁側のほうに小動物を誘導したいと思うのです。  
・いずれにしても、そういった部分をモニタリングしないと分からない部分なので、その辺を調べながら、なかなか対応しにくいのですけれども、まず、そういった対策をした後にどうなるかというのをモニタリングしていきたいと思っています。

## 矢部座長

- ・他に浅利さんからコメントできることがあったら、お願いします。

## 浅利構成員

- ・保全対策については別個に聞いてもらってもいいですが、こちらでやっていることもあるので、内容はお教えできます。

## 矢部座長

- ・では、よろしくをお願いします。
- ・今までの議論で、コウモリ類、リスについては、議論を終わりにして次に行きたいと思います。
- ・鳥類に重要種がいて、13、14ページにありますようにかなり思い切った対策を取っていて、オオタカ配慮区域には半径250メートル以内に営巣中は入らせないという案が出てきています。これについて御意見をお願いします。

## 高木構成員

- ・お示された状況でいいと思います。鳥に関しては特に、アセスの方々が非常に詳細に調査をされて、現状把握はきちっとできているものだと思います。
- ・道路を造ることはどうしようもないことですが、本当はこの巣があるすぐ近くに車が走るという意味では少し問題といえれば問題なのですけれども、施工中止まで視野に入れている対策を講じるということで評価できるものだと思います。

## 矢部座長

- ・専門家からこういう御意見が出ましたけれども、他の皆さん、何か御意見ございますか。
- ・特にレッドリストに載るような猛禽類はかなり慎重に扱わなければいけないということで、こういう結果になりました。これ以上何ができるかというところもあるのですけれども、これでよろしいですか。よろしければ、次15ページの両生類です。
- ・両生類については、特に繁殖池と成体になってからの行動域が違うということで、移動経路とかが問題になってくるということ、横断しようとして道路に入ろうとするのをどう防ぐかという問題なのですけれども、スロープ付き側溝とかを検討した結果が出ています。これについては、高井さんから何かあったらお願いします。

## 高井構成員

- ・産卵場所をどうするのか、ロードキルを防ぐためにどこにスロープ付きの側溝をつけて、道路に両生類、特に今回はエゾサンショウウオを出さないようにするかに関しては、大体説明していただいたとおりになります。
- ・一番移動するのが産卵期、繁殖期になりますので、16ページにも書いていますが、積雪によって側溝が埋まってしまって、もしかしたら渡りやすい状況になっている可能性があるというところで、実際にこの時期に路上に出るのかどうか、道路ができたときにモニタリングをする必要があると考えています。
- ・あと、エゾサンショウウオではないのですが、道路に出してはいけない、なるべくロードキルで他の生き物を誘引してはいけないという点で結構問題になってくるのがヘビというのがあります、ヘビの移動に関して、ヘビを専門にしている、ばいかだ（団体名）の徳田さんという方に相談させていただいたのですが、図にあるスロープ付き側溝だとヘビを止めることはできないということもあるので、実際に道路にどのくらい出てくるのかに関しても今後一緒に検討していければと考えています。

## 矢部座長

- ・ヘビと一緒に側溝に落ちるといいますか。

## 高井構成員

- ・ヘビは結構道路に出て、日光浴とかするのです。野幌森林公園とか、この道路周辺の森林とかに棲んでいるヘビが、建設予定の道路に出てくるのを止めることができるのかどうかということで、例えばこの側溝に落ちたとしても、特に成体のヘビだと側溝から這い上がれる可能性が非常に高いのです。
- ・成体のヘビが実際どれくらい道路に出てくるのかについても調べたいという話になります。

## 矢部座長

- ・それはヘビが餌としての両生類を狙ってここに来るといいますか。

## 高井構成員

- ・そういうことではないです。

## 矢部座長

- ・横断施設というのは、雪があるからそんなに効果がないだろうということについてはいかがですか。

## 高井構成員

- ・片側のスロープ付き側溝にしたというのは、この側溝によって両生類が道路に出るのを止める目的ですが、もしこの側溝が4月、3月末ぐらいにおけるエゾサンショウウオとかの繁殖期のときに雪で埋まってしまっている場合には、側溝も平らになってしまっている可能性が高いですので、平気で越えることができるのではなかろうかという危惧はあります。

## 在田構成員

- ・今の話で、横断施設というのは、側溝のことですか。私、意味が分からなかったのですけれども。横断施設は何を意味しているのでしょうか。

## 事務局(道)

- ・道路を横断する管やボックスカルバートだとか、下をくぐる施設のことです。

## 在田構成員

- ・私、それだと思っていたのですけれども、今の話はちょっと違ったような気がしたので。

## 高井構成員

- ・確かに下をくぐるようなところに関しても、積雪で埋まっている可能性があるのも、使われない可能性はあります。

## 矢部座長

- ・両側に分断されても、道路の北側と南側のそれぞれで十分なホームレンジもあるし、繁殖可能という考え方ですね。

## 高井構成員

- ・そうですね。ただ道路の北側に関しては、ほとんど繁殖が成功していないのです。
- ・それも今年が特異的なものではなくて、結構産卵している環境ではありますが、恐らくですけど

も、ほぼ毎年について繁殖に適さない池ではないかと考えています。

### 矢部座長

・それは湧水するからですね。

### 高井構成員

・はいそうです。ですから北側のものに関しては、このエゾサンショウウオの個体群への影響というのはあまり考えられないと思っています。

### 矢部座長

・そういうエビデンスのデータがあるのであれば、横断する施設というのは特に要らないというか、あっても雪で埋まってしまったら使えないということでこういうことになってきますが、何かこれについて御意見があればお願いします。

### 平田構成員

・今までこういう話が出ていたかどうか、ちょっと私の記憶にないのですが、産卵をする水域を埋め立てて、他の場所に誘導するという議論はこれまでなされてきましたか。16ページの右下に、秋から冬にかけて埋め立てて、改変域外での産卵を誘導するという文章が書かれているのですが、こういった議論は今までにありましたでしょうか。

### 矢部座長

・実際にこれはもう既にやっているのですよね。高井さんお願いします。

### 高井構成員

・実際のその工事というのはよく分からないのですが、これに関しては、実際に繁殖が始まってしまう前に、工事予定地になる繁殖池、卵を産んでいるところを埋め立てて、別の池に繁殖に行ってもらおうという対策でやっていこうというふうに考えています。

・これに関しては、たしか平田さんがいらっしゃる前の北広島市での意見交換会の際に御相談させていただいた内容になります。

### 平田構成員

・今、埋め立てが必要というのは、16ページの地図でいう4つの三角形がそれに該当するのかなと思うのですが、合っていますか。地図の中の赤と青の三角は埋め立てが必要というふうに書いてあるので、ここを潰してしまうという認識でよろしいでしょうか。

### 事務局(道)

・はい。

### 平田構成員

・他の場所に誘導するのに新しい場所を造らないのであれば、単純に産卵する場所が減るだけという認識なのではないでしょうか。逆に、誘導するのであれば、増やす場所をどこにするのかというのが書かれていないので、どうなのかなと疑問に思ったのですが、

### 高井構成員

・以前、座長からも聞かれたことなのかもしれませんが、別の池を造るかということに関してです

けれども、私個人としては造らないほうが良いと考えています。

- ・今回道路を造るということは、多かれ少なかれ環境に影響があるということは避けようがないところで、この4つの池に関しては、そういうふうに捉えていくしかないのかなと思います。

- ・さらに、なぜ池を造らないかということに関しても、もし池を造るとなれば、ユンボか何かで池を造ることになるのですけれども、エゾサンショウウオに適する池を造るというのは結構難しいのです。できれば、もう既にちゃんと自然が成り立っている天然池の追加指定範囲、これはもちろん手を加えることはできませんし、もしそれ以外になってくると、そこそこ開けた場所で、ユンボか何かを使って、それなりのちょっと大きめの、例えば15ページの写真にあるやかましの森のような池というのを代替で用意することになると思うのですけれども、もしこういう池を造ってしまった場合、仮にエゾサンショウウオが産卵してくれたとしても、トンボ、特にこういった広い面積を造ってしまうと、ヤンマ系のトンボとか入ってきたりしないですかね。

- ・ヤンマ系のトンボが入ってしまうと、結局そこにエゾサンショウウオが卵を産んだとしても、ヤンマとかに食べられて、あまり個体数の維持というところに関しては効かないのです。

- ・この森周辺、特に野幌森林公園の周辺には、結構外来の両生類が多いのです。野幌森林公園には既にツチガエルという外来種も入っていますし、トノサマガエルという外来種も結構入ってきているのです。

- ・もしこういう人工的な池を造ってしまった場合、外来のカエルがたくさん入ってしまうことも考えられます。

- ・まだ北広島、野幌森林公園までは来ていないのですけれども、清田の有明とか、近隣の地域までオオヒキガエルが侵入を広げており、産卵地になってしまうことも考えられるので、この地域に関しては、そういった人工的な池を造るのは控えたほうが良いと考えています。

## 矢部座長

- ・現状の個体群密度はどのようなのですか。

## 高井構成員

- ・エゾサンショウウオの現状の個体群密度ですか。

## 矢部座長

- ・飽和に達しているような状況ですか。

## 高井構成員

- ・それに関しては分かりません。1回の調査結果しかないもので、今の個体数とかそういったのが適正なのかどうかということの判断はちょっと難しいですね。

## 矢部座長

- ・失われた生育地の代わりにビオトープを造ってしまうと外来種が入る可能性もあるということで、しないほうが良いという判断でしたので、このとおりいくことでよろしいですか。

## 在田構成員

- ・この図の16ページ、15ページにもありますけれども、三角形のところ4か所あるのかな。これは全部本川の橋梁の橋脚とかになるところですか。大ざっぱにこっちの地図を見るとそんな感じだったのです。それで埋め立てにしてしまう。

## 事務局(道)

橋梁のところもありますが、橋梁というより道路を築造するときの下になってしまうところということでご認識いただきたいと思います。

## 在田構成員

・やっぱり潰れてしまうということですね。

## 事務局(道)

・工事で潰れてしまうということでございます。

## 矢部座長

専門家としての立場の判断ですので、それは尊重していきたいと思いますが、よろしいですね。

## 高木構成員

・ロードキルの話にちょっと戻るのですけれども、道ができた後のロードキルのモニタリング体制は整えたほうがよさそうですね。

・もし、ヘビがよくロードキルに遭うような場所があるということがわかれば、その対応をするとか。ヘビが死んで、そこに死骸があると、例えばトビが降りてきたりで二次的な被害も起こる可能性もあるし、実際ヘビが出てくると交通事故につながる可能性があることも想定されるので、どうでしょう。

## 矢部座長

・モニタリングについては、事務局から出ましたように工事後も行っていくとのことでした。期間は3年とかかかもしれませんが、エコロードのいろいろな仕掛けがどの程度効果があるかというのを見ようとしていますから、その一環で今の意見は対応できると思います。

## 事務局(道)

・補足しますが、管理上、道路パトロールを行うのですが、先ほどから話題になっているとおり、この道路の使われ方というのが特殊な部分があるので、道路パトロールの仕方というところも考えなければいけないと思っております。

・小動物とか両生類等のロードキルに主眼を置いて、道路パトロールの仕方をどうするかというのを提案しなければいけないと思っておりました。今の先生方の御意見も踏まえながら考え、それはモニタリングとはまた別な形になるかもしれないのですが、両方を睨みながら検討していきたいと思っています。

## 矢部座長

・では、両生類等はこれで終わりにしてよろしいですね。

・昆虫類では、街灯を設置しない、橋長を長くしたこと、夜間工事のときには照明の光漏れを防止するというような、いろいろな対策が出ています。18ページの長方形でくくった中の3行目、水変域というのは水辺の域ということです。

・専門家として平田さんから御意見をお願いします。

## 平田構成員

・正直に申しまして、本当にこのヘッドライトの影響というのがどうなるか分からないということと、前回までの議論にありましたように、実際に道路ができてみないことには、どこに光が当たるのか、

どこから誘引されるのかというのが正直分かりにくいというのが現状であるのは、本当にそのとおりだと思います。

・調査の仕方は、とりあえずこういう形でと考えていらっしゃるかと思うのですが、実際やる時にはもう少し丁寧な場所の設定等、いろいろなことをされるとと思いますので、これから要検討ということでもよろしいのではないかと考えております。

## 矢部座長

・17ページに挙げた4つの対策でいきたいと思うのですが、どうでしょうか。

## 事務局（道）

・平田先生がおっしゃったとおりで、調査方法については実際の車の配置、走行状況、停止状況によって違ってくるものですので、もう少し時間をいただきご相談したいと考えております。

## 矢部座長

・その点、よろしくをお願いします。  
・昆虫類というのは本当に大きな分類群ですので、一概に、どういう対策をするというのが取りにくいと思うのですが、この4つの項目でいくということでもよろしいでしょうか。  
・19ページ目の魚類、水質ですね。水質については環境基準で非常によい水質で、これからも維持していかなければいけません。それは汚染源をつくらないということになります。濁度については先ほどのとおりです。  
・それで20ページにありますザリガニについては、2匹いて、それを安全なところに移植したということになっていますので、これ以上何もする必要はないと思います。他に出てきたらまたやるということでもよろしいですね。

## 高井構成員

・ちょっと伺いたいのですが、このザリガニの2個体を取ったところって、近くに伏流水というのですか、湧き水か何かが出ていたとかということはないですか。

## 事務局

・丘陵の際のところの恐らく伏流水というか、夏場でもじくじくしているような感じで流れているようなところではないです。エゾサンショウウオを移植した池の裏側の丘陵のあたりがちょっとじくじくしている環境で、明瞭な流れがあるところではなく、足で踏むとじくじく埋まるようなところですよ。

## 高井構成員

・見つからないものに関して言ってもしょうがないところがあると思うのですが、結構、伏流水というか、湧き水の近くとかに見ることができると思うので、工事のときもそういったようなところに配慮していただければと思います。

## 矢部座長

・ザリガニについてはそれでよろしいですね。  
・次に21ページの植物の希少種ですが、4種が工所用道路と本道路の場所に生えていて、それを移植したのですが、まず仮移植をしておいて、選定調査をこれからします。移植先の選定には、移植先の群落種組成、土壤水分、照度を見て、既にデータがある現在の仮移植地との比較で適地を検討します。これ以上は、やりようがないということです。  
・モニタリングにつきましては、本来であれば、次の世代が着実に種子から育っていくところまでを

確認したいので、御検討ください。何年か後に再調査するということになりますから。それでこの方法がよかったかどうかの本当の検証になります。植物重要種の対策について何か御意見がありましたらお願いします。

- ・それでは、23ページになりますが、工事によって取付道路をつけたりで、湿地の破壊と、道路法面の植生の復元について案が出されています。

- ・この検討は私も一緒に行ったのですが、特に有望な植生が期待できるところについては、表土ブロックを工事現場からブロックの塊として移動して、後で戻します。

- ・法覆基材というのは、要するに表土を剥ぎ取って、後でそこに戻してあげる。表土の中には埋土種子という生きた種が埋まっていますので、それから植生復元を図るものです。

- ・こうすることの意義は、単に裸地をほっておいて自然に復元するのを待つよりも早い復元が期待できますし、何よりも外来種が入る隙間をできるだけ早く埋めてしまおうという対策です。

- ・24ページにあります復元後の維持管理というのは、これは非常に重要なことで、外来種がもし入ってきてしまった場合には、それを早い段階で潰してしまわなければいけないということなのですが、エコロードとして北海道が関与するのが、工事終了後、二、三年ぐらいというふうにお聞きしていますので、他の対策方法を考えなければいけない。

- ・この後植生がどうなるかということを追いかけて適切な対策手段を取るためには、新しい仕組みを考えていかなければいけないと私は思っています。それが地域等によるモニタリングになります。これについて御意見を伺いたいのですが。

## ○エコロードと周辺の利活用について

### 高井構成員

- ・確認で伺いたいのですが、ここの地域等によるモニタリングというのは、31ページの真ん中ぐらいにある、周辺地域の利活用等を検討する会などというのが引き継いでいくというふうな理解でよろしいのでしょうか。

### 矢部座長

- ・そのように考えています。

### 高井構成員

- ・わかりました。ありがとうございます。

### 在田構成員

- ・北広島には自然保護団体が複数ありますし、皆さん熱心に活動しているので、そういうところに協力いただいて、外来種の除去等をやったらいいのではないかと思いますけれども、三澤さんどうですか。

### 三澤構成員

- ・地域等々の地元の方のいろいろなレクリエーション的な利用以外に、自然観察等で見守っていくということがとても大事なことだと思いますので、それは幾つかの市民団体をお願いして、そうした形の環境保全の意味でのモニタリングは検討していきたいと思っております。

### 矢部座長

- ・北広島市としてはどのようにお考えですか。高橋さんお願いします。



## 高橋構成員

・利活用の面も含めまして、それぞれの部署にまたがるということもございますので、今後検討という形になります。

・例えば、私どもの部署でいいますと、前にも報告をさせていただきましたが、環境審議会という専門部会がございますので、そちらの部分もございまして、今言われたようにいろいろな団体等もございまして、その辺は組織の在り方を含めて、今後の検討課題になるのかなというふうに思っております。

## 矢部座長

・環境審議会は、得られた結果を評価することだと思います。別なセクションでもう少しここを今後、北広島市としてどう捉えて、どういうコンセプトでここを管理していくかということを示していただけましたらと思います。

・今すぐということではないのですけれども、数年後に道路が完成して、その後、この自然をどう取り扱って、そして、どう利活用するかということは、市として検討していただきたいと思っています。

## 高橋構成員

・私だけの立場で答えられない部分ではございますので持ち帰らせていただきますけれども、先ほども言いましたとおり、様々な部署、例えば野幌原始林の利活用の関係の部分もございまして、公園の部分など様々ありますので、市全体としてどのような形がいいのかということは持ち帰って検討させていただきますと思います。

## 高木構成員

・単なる印象ですが、この会はこの道に関する議論をいろいろするところで、ある意味、壊す側でもあるわけです。三澤さんがおっしゃったように、地元の自然保護団体の関与という優しいお言葉がありました。果たしてそこに甘えていいのかなという気はします。

・やはりこれは、モニタリングをしていくというのは施工する側の義務であって、ここで何か自然保護団体に投げかけたりするというのはちょっと違うと思うのですけれども、どうでしょう。

## 事務局（道）

・貴重な御意見でございます。おっしゃるとおりだと感じたところでございます。エコロードのコンセプトを今回させていただいているという中で、一つ、保護団体さんというか、市民の方の支援があるということはいい話なのかなという捉え方はしておりまして、その辺の考え方というのは、今、高木先生おっしゃったことは重々理解はしているところで、今の御意見を踏まえながら、在り方については改めて検討させてもらってよろしいですか。

・今ここで、我々事業者側で全てモニタリングさせていただくと言えれば簡単なのですが、そういった御支援もあるという話を今お聞きしましたので、そこは実際のところ、第三者から見てどうかということも含めて検討させていただきます。

## 高井構成員

・私的な意見で恐縮なのですが、確かに高木さんのおっしゃるとおりな部分はあると思います。モニタリングとか維持管理というものは、確かに道路管理者でやらなくてはいけないところはある一方で、やっぱり地元とか地域の人たちというのが、道路とか周辺自然環境に興味を持ってもらう一つのきっかけにはなったと思うのです。

・ですので、さらによく知ってもらうというのと、あと、市民がそういったような行政活動とか監視

するといったらちょっと人聞きが悪いかもしれないですけども、そういったチェックみたいなのも兼ねたような形で、民意で加わっていただくというのはありなのかなと感じました。

### 矢部座長

・この話は、あの場所は結局北広島市の財産になりますね。道路の周りの自然は利活用も考えていらっしゃるようですので、北海道と北広島市と、それから市民活動をされている方の協議でいろいろ決めていくのがいいかなと思うのですけれども。

### 事務局（道）

・勿論、基本的なところでいくと道路管理者は北海道ということで、例えば道路パトロールも含めて、これは当たり前なのですけれども、道路管理者がやるべきことです。イメージで話をするのは申し訳ないのですが、例えば、植樹帯を市民団体の人ですとかボランティアの人に植えてもらうというやり方もあったりします。

・実際、我々道路管理者でやっている場合もあるので、確かに高木先生がおっしゃった、基本的な考えはぶれてはいけないというのはあります。預けるとかというのは全く思っていないです。

・モニタリングとしてお手伝いみたいな形で捉えています。基本的な姿勢は事業者側でということは、ぶれてはいけないなと思っています。

### 矢部座長

・今の部分、道路の話ですか。あの地域全体の話ですか。

### 事務局（道）

・道路です。

### 矢部座長

・道路は北海道が。

### 事務局（道）

・はい。ただ、維持管理の今後の役割分担は、これから北広島市さんとお話しするということになりますので、そこは御承知おき願いたいということです。

### 矢部座長

・この後、あの辺をどのような基本的な考え方で維持管理していくかということは、三澤さんのような方と一緒に協議してほしいと思うのです。

### 三澤構成員

・どなたがリーダーシップを執って話を進めていくのかということが見えてこないわけですね。だから、市民団体がこのような観察会を実施したのは、あくまでも市民レベルでやっていることで、それがどのように行政に生かされるのかという、そのストーリーが見えてこないの、そのリーダーシップをどこが仕切るのかを示していただきたいと思います。

### 事務局（道）

・リーダーシップは行政が図るべきものと考えていますので、そこはぶれずに今後も進めていきたいと思っています。

## 矢部座長

・行政というのは二つ考えていいですね。道と北広島市さん。そうでないと変だと私は思うのですけれども。

## 平田構成員

・行政のことはよくわからないのですけれども、今回、道が道路を造り、工事に関わって破壊した部分及び道路となる部分、この維持管理という責任は道が行うでよろしいですね。  
・まずその上で、北広島市の土地にかかっている、その道路の周辺部分に関しては、北広島市さんが基本的に管理される場所という認識でよろしいですね。

## 矢部座長

・そのほうがすっきりしますけれども。それでよろしいですか。

## 事務局（道）

・言葉足らずでした。道路の事業、整備、ともに当然道でやるのですが、道路の維持管理となる除雪ですとか道路パトロールの部分については、北広島さんと今後どうするのか、総合運動公園と一体となって道路を管理したほうが効率的ではないかという議論があるということをお話ししたかったのです。  
・そこはまだ決まっていますが、今のところ、道道としての道路の持ち主は北海道であるということとはぶれもないですし、完成した後の除雪とか道路維持を今後どのように進めていくかというところをこれから模索するというところでした。

## 矢部座長

・ではその中で、このエコロードに関わるいろいろな維持管理についても検討していただきたいと思っています。

## 事務局（道）

・はい。

## 矢部座長

・この検討結果が出るのは来年のこの協議会になりますか。

## 事務局（道）

・最後に今後のスケジュールをお話しさせていただきますが、基本的に継続させていただくというふうに考えておりますので。スケジュールはまた後ほど。

## 矢部座長

・それでは、全部話しましたね。  
・では、最後の周辺地域の利活用という31ページ、それから32ページの事業の進め方で何か質問、御意見がありましたらお願いします。

## 浅利構成員

・ここではなくて、ちょっと手前のモニタリングだけ、一つだけ言いたかったことがあります。  
・シカのモニタリングで、道路周辺にシカが出るかどうかを恐らく工事前、工事中、供用後で見ようとしているのですけれども、道路ができた段階で、道路上への侵入も見たほうがいいと思いま

すので、カメラだけではなくて踏査、全域線の踏査をやって痕跡調査を加えたほうがいいと思います。

### 矢部座長

・お受けしました。皆さん、他に御意見があればお願いします。トータルでどこからでもいいです。

○全体を通して

### 三澤構成員

・事務局から令和5年に工事用道路を撤去するというお話が冒頭にありましたが、それは令和5年には完成するという事ですから、そのときは撤去される。そうしたときに、西裏線との絡みはどのようなのかというのは前にも質問しましたが、西裏線は市道なので、道道の公園線とは別物でありますけれども、工事用道路の復元に関しては、西裏線抜きには語れないと思うのです。

・ですから、今日でなくて結構ですので、次回でも北広島市から、その青写真を示してもらいたいと。そうすることによって復元がどうなるのか、また、先ほど言った利活用がどのようにされるのかという目処が立ってくると思うので、是非それは市のほうに要望したいと思います。

### 事務局(市)

・市道西裏線につきましては、今後のスケジュール等々でお示しできる部分については今後もお示ししていきたいと思えます。

### 矢部座長

・まだほとんど決まっていないということですか。

### 事務局(市)

・現状ということでお話させていただきます。現在まだ設計作業中ということ、土地が民有地という部分も含めて、なかなか今現時点で、どのタイミングでどこからという部分についてお示しするのは難しい状況ではありますが、あくまでも予定という部分を含めて、今後お示しできる部分に関してはお示ししたいと考えております。

### 矢部座長

・現段階では、工事用道路撤去のタイミングとか目処が立てられないということですね。

### 事務局(道)

・連携をとって情報はお聞きしているのですが、今の状況で考えれば復元するという方向で予定しています。

・目処が立たないのであれば、復元する方向でお話しせざるを得ないというふうに考えています。

### 矢部座長

・北海道としては、今日のこのスケジュールでやっていくということですか。

### 事務局(道)

・そうです、はい。

### 三澤構成員

・今の話は納得できる話ではないですけども。

・というのは、復元してまた剥ぎますということなら、非常に無駄なことをして、まさに自然破壊を

さらに進めることになると思うので、そのあたり、十分検討されて協議させていただきたいと思いません。

## 事務局（道）

- ・三澤さんおっしゃるとおりで重々承知していますが、現時点ではそういう方向なのですけれども、北広島市さんの計画が見えた時点で軌道修正するつもりです。
- ・何回も何回も現地を改変したくないのは我々も当然だと思っておりますので、そういった無駄なことは全然する気もないです。逆に市さんのほうで早く計画を決めていただければと考えております。

## 矢部座長

- ・一つ、私からのお願いは、表土ブロック移植工も、法覆基材工も、年数が経てば経つほど厳しくなっていくますから、2年、3年、4年と経つと埋土種子も死んでいきますし、できるだけ早くしてほしいと思います。
- ・他によろしいでしょうか。それでは、大変有意義な議論の展開に御協力していただきまして、本当にありがとうございます。では、事務局にお返しします。

## 高木課長（司会者）

- ・矢部座長、議事進行、大変ありがとうございました。また、それぞれの御意見ありがとうございました。
- ・それでは、時間は押しているのですが、5分ほど時間を取らせていただきまして、まとめとスケジュール等に入りたいと考えております。
- ・17時5分から始めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

（休憩）

### （3）取りまとめ

## 高木課長（司会者）

- ・まとめの部分でございますけれども、今回4回目ということで、今まで様々な御提示をさせていただいたなか、多くの御意見をいただきましたが、環境保全措置としての基本的な部分は、今回の提示案で進めさせていただきたいと考えております。
- ・環境保全に係る対策を検討した部分において一番大事なものは、御意見をいただいた部分をとにかく今後、実効性を持って進めていくことだと考えているところです。
- ・また、エコロードとして供用後のモニタリング及び管理をしっかり進めていくようにと御意見がございましたので、やり方も含め具体的なやり方を考えて、また御提示をしていきたいと考えております。
- ・個別には幾つか課題もあり、濁水対策については、基準的なところをどうするかという部分は、工事業者さんのやり方というものもいろいろな提案がございますので、それを取りまとめて、皆様にお伝えしなければいけないと思っております。
- ・ロードキルに関しての基本的な考え方は、今回示したやり方で進めていくのですが、爬虫類のヘビ、小動物ではリスの関係もございましたので、リスであれば方向性は定まっているのですけれども、改めて次回まで、若干宿題になった部分もあるので、御説明していかなければいけないと思っております。
- ・モニタリングをする上で、市民や団体さんの御協力という部分に関しては、あくまで主体となるのは行政側ということで考えてはいるのですけれども、ボランティア的なことをお考えだったりお手伝いしてくれるということであれば、そこは別個に検討しなければいけないという部分はございますので、行ったことをこの場に報告をしていくとか、やり方を考えていきたいと思っております。

- ・細かい部分など課題等はあるのですが、今回示させていただいた方向でまずは進めさせていただくということで考えておりますので、よろしくお願いいたします。
- ・続きまして、今後のスケジュールでございますが、我々のほうで考えているのは、次回開催は今後の各種モニタリングの経過報告とともに、工事の進捗状況を踏まえた周辺環境等の確認となります監視という言い方にもなるのですが、そのようなことを目的として、来年度早い段階で開催したいと考えております。
- ・これから工事を進めていくなかで新たな課題等が出た場合には、必要に応じて協議会を開催して、御意見をいただきながら進めていこうと考えています。
- ・それとともに、現在設計中の箇所がございますので、課題等が出た場合は、個別にもしくは大きな課題であれば協議会を開催していきたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。以上でございます。
- ・それでは、全ての議事が終了しましたので、これにて閉会したいと思います。お疲れさまでございます、ありがとうございました。